

建設業での女性活躍を
支援するプロジェクト

Vol.5

team

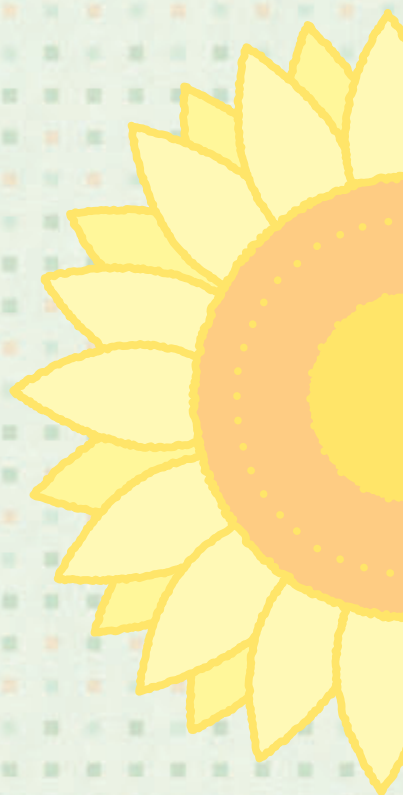
HIMAWARI

WARII

チームひまわり

team HIMAWARI

- Vol.42** 女性チームが立ち上げたブランドで暮らしを豊かにするペイントを提案
日本ペイントホールディングス(株)
ROOMBLOOMを訪ねて06
県民、企業、行政との連携で女性が活躍できる社会を目指す
「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」
埼玉県産業労働部ウーマノミクス課を訪ねて10
- Vol.43** 「女性技能者の坑内労働規制緩和に関する公開討論会」
参加レポート14
- Vol.44** 都心にながら心うるおう場所を目指して女性が活躍している現場
WATERS takeshiba(ウォーターズ竹芝)を訪ねて18
測量・地理空間情報 女性の技術力向上委員会
「ソクジョの会」を訪ねて22
チームひまわりの活動レポート25
- Vol.45** チームひまわりの活動レポート26
- Vol.46** ～建設業の未来のための種まきを～学生に建設業の魅力を伝えたい！
「けんせつ姫活動」の土佐工業株式会社を訪ねて28
首都高速道路の更新工事の現場を見学し、土木の魅力を体験
株式会社大林組 首都高東品川JV工事事務所を訪ねて32
- Vol.47** 全ての働く人に安全と快適さを提案
ミドリ安全株式会社「ワーク女子力」を訪ねて36
- Vol.48** 株式会社大林組 四国支店 齋藤 久仁子さんへインタビュー！
周りへの感謝、上司や同僚と積み上げてきた
22年間とこれから40
チームひまわりの活動レポート43
- Vol.49** 有限会社牧野建設 専務取締役 松田由紀子さんへインタビュー！
女性ならではの円滑なコミュニケーションで活躍44
- Vol.50** くらしてミーティングの紹介46
チームひまわりの活動レポート49
- Vol.51** 作業は安全が最優先！近隣への気配りを大切に
東京メトロ銀座線浅草駅作業所を訪ねて52
- Vol.52** 道路台帳や固定資産評価から遺跡調査まで、
国内外の多様な領域に広がるソクジョのお仕事56
- Vol.53** 日本建築士上学会「女性ネットワークの会」の紹介60
- Vol.54** 建設ディレクター®
リモート時代の新しい働き方64



※Vol.42～54は、月刊「建設物価」2019年8月号～2020年8月号に掲載したものです。

Vol.1～54の記事は、当会ホームページでもご覧いただけます。

チームひまわり

検索

第42回目は、日本ペイントホールディングス株式会社の女性メンバーが立ち上げた「ROOMBLOOM」と、埼玉県が推進する「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」の活動をご紹介します。



柳谷典子さん（ROOMBLOOMのショールームにて）

女性チームが立ち上げたブランドで暮らしを豊かにするペイントを提案

日本ペイントホールディングス(株) ROOMBLOOMを訪ねて

日本ペイントホールディングスの「ROOMBLOOM」は、「暮らしを考えるペイント」をコンセプトに住宅内装用塗料を日常生活に取り入れたライフスタイルを提案しています。ウェブサイトやFacebook、動画などさまざまなメディアを使い、ペイントに関する話題やペイントの楽しさを発信。新宿リビングデザインセンターOZONEのショールームでは、月に1度、ペイントを体験できるワークショップも開催されています。

設立の経緯

ブランドを立ち上げ、運営をしているのは同社の女性チームです。経営企画本部ROOMBLOOM推進グループリーダー、柳谷典子さんにブランド誕生のいきさつをうかがいました。「2011年に社内内で女性活躍推進のために女性社員が20人ほど集まる場がありました。これまでのキャリアを振り返り、今後のキャリアプランをどう作るか、何が改善されれば働きやすくなるかといったことがテーマでした。そのチームでは新しい事業を考えるというミッションはありませんでしたが、私と同期の技術職の女性で、新しい面白いことをできないかと考えたことが始まりです」。同社はビルや橋梁、自動車や鉄道車両用などの高機能塗料を開発して



います。2人は、その技術力に生活者の視点でデザインや色彩をプラスし、ペイントで暮らしを変える新しいブランドを考えました。それを会社に提案し承認されたのです。

役員秘書から新規事業立ち上げ

入社以来、柳谷さんは役員秘書をしていて、マーケティングやブランディングの経験はありませんでした。「秘書の仕事を通して俯瞰してものを見ることの大切さを学びました。それが今の仕事に役立っている

色に名前やストーリーを付ける

2013年4月に女性社員による空間デザインチームが結成され、プロジェクト

ます。ペイントに対する生活者としての思いもありました。自分のキャリアを考えていたこともあり、チャレンジの機会を与えてくれた会社に感謝しています」と柳谷さん。さらにプロジェクトを始めてから、社会人大学院でソーシャルデザインを学び、その経験を活かしてさまざまな試みをしていきます。

がスタート。デザインやウェブサイトを作り情報発信のプラットフォームを整えて、同時並行で商品開発を行い、わずか5カ月後の8月にROOM BLOOMをリリース。

新たに開発したのがオリジナルの色。従来の塗料の色は日本塗料工業会発行の塗料用標準色があり、この色票番号で色が指定されます。しかし色数が多く、一般の人が色を選ぶのは難しく、欲しい色と微妙に違うことも多々あります。そこで数千色の中から、室内や暮らしに欲しい色を想像しながら集めた144色のコンセプトカラーに45色のデザイナーズカラーを加えた全189色を揃えました。それぞれの色には「パリの朝」「secret diary」「Aioha!」といった名前やストーリーがあります。「名前や物語があることで、色を選び、決めるプロセスを楽しんでいただけます」と柳谷さん。ある時、「自分たちの食卓のストーリーになつたらいいな」とやさしい黄色系の「breakfast」を選んだ人がいました。その時、目指している提案が体現できているのを感じた柳谷さんは言います。白と言っても20色以上の色があるのです。「とりあえず白でいいや」ではないのです。

色を楽しむ文化を根付かせる

欧米やアジアでは内装をペイントすることが当たり前ですが、日本では住宅の内装にペイントを取り入れることはまだ一般的ではありません。クッションカバーやベッドカバーは気軽に変えても、壁の色を変えようとすると、大掛かりな工事をイメージしてしまいます。リビングルームを自分らしい空間にするためにペイントは効果的な方法ですが、抵抗感のある人も多いそうです。家族に反対されるかもしれないという不安



ショールームで建材に塗っている色の紹介。その色のストーリーが書かれている

第44回目は、「WATERS takeshiba
(ウォータース竹芝)」の現場事務所と、
「測量・地理空間情報 女性の技術力向上委員会
(ソクジョの会)」をご紹介します。



イメージパース (浜離宮恩賜庭園側外観)

都心にいながら心うるおう場所を 目指して女性が活躍している現場 WATERS takeshiba (ウォータース竹芝)を訪ねて

「WATERS takeshiba
(ウォータース竹芝)」はラグジュアリーホテ
ル・オフィス・商業・劇場からなる都心の
複合開発です。「つぎの豊かさを生み出す
まち」をビジョンに掲げ、これまで劇団四
季が培ってきた文化・芸術の発信拠点の



機能を核に、水辺と浜離宮恩賜庭園を臨
む立地環境を最大限に活かした、新しい
まちづくりを推進しています。
竹芝ウォーターフロント開発計画とし
て、2017年11月に本体工事に着工、
東京2020オリンピック・パラリンピッ
ク前の2020年4月に1期(高層棟・
駐車場棟)開業、2020年内に2期(劇
場棟)開業を予定しています。

現場事務所のみなさんに

お話を伺いました

構造設計を
担当されています
株式会社JR東日本建築設計
長田さん



建設業界に入られたきっかけは？

大学の研究室の担当教授が民間の構造
設計をされていた先生で、その先生のお話
を聞いて過ごしたのと、現役で構造設計

インタビュー中の

ヒトコマ



岩切さんが使用している安全帯を実際につけてさせていただきました！安全帯は見た目以上の重さがあり、バランスがうまく取れず悪戦苦闘する取材陣でしたが、岩切さんのアドバイスのおかげで無事装着することができました。貴重な体験をありがとうございました。



Smile

施工中の高層棟をバックにWATERS takeshibaの建設現場に從事されている女性技術者にお集まり頂きました。他にも多くの女性が活躍されています。



TEAM HIMAWARI

現場レポート

文・上中



今回はWATERS takeshiba（ウォーターズ竹芝）の建設現場にお邪魔しました。現場環境が良く、大勢の技術者が熱意をもって真摯に取り組んでおられるのを感じました。竣工が楽しみです！女性技術者の皆さまには、これから建設業界を目指す女性たちのために、取材にご協力いただきました。

多くの取材申し込みがあるなかで、本当にありがとうございました。

さて、2019年7月、国土交通省では女性活躍に向けた取組をさらに一段進めるため委員会を設置し、より建設業界の実情、特に全国の建設現場で働く女性の意見を反映した新たな行動計画を策定すると発表しました。私は今回の取材で、女性更衣室はただ着替えるだけの場所ではなく、女性技術者の情報交換の場所としても大切だと感じました。女性活躍の取組を加速化する新計画を楽しみに待ちたいと思います。